

令和4年度学校経営方針



1 基本構想

(1) 校訓

躍 動

(2) 目指す学校

在校生が、小学生が、保護者が、地域が、そして職員が

行きたい(行かせたい)学校NO. 1

(3) 学校教育目標

「未来を見すえ、 たくましく生きる生徒の育成」

- ア 主体的に学習に取り組み、表現力が豊かな生徒
- イ 自己肯定感が高く、思いやりがある生徒
- ウ 心身ともに健康で、少々のことではへこたれない生徒



(4) 重点目標

自ら気づき 行動する

- ① 自ら 礼儀正しいあいさつをすべきだと気づき、気持ちの良いあいさつをする
- ② 自ら 時計を見て2分前だと気づき、呼びかけしたり、着席したりする
- ③ 自ら 前に出て説明した方が伝わりやすいと気づき、理由をもとに説明する
- ④ 自ら 欠席者を気遣い、プリントを机に入れたり、仕事を代わりにやったりする
- ⑤ 自ら の清掃分担が終わっても更にやった方がよいことを見つけ、掃除をする

2 具体施策

(1) 学力向上

ア 東中式「きく・が・わ授業」の実践

・仲間の方に体を向けて真剣に、「**聴く(きく)**」 →聴く力の育成

まずは聴く力の育成が学力向上の源。傾きながら、イメージを膨らませる。

・自分の考えやまとめをたくさん「**書く(が)**」 →書く力の育成

書く力の徹底育成。理解力アップのために、文字言語でアウトプットする。

・大きな声でわかりやすく「**話す(わ)**」 →対話する力・説明する力の育成

プレゼン能力の育成。「根拠や理由を明確にして発表」「前に出て説明」etc …。

イ 東中対話の効果的な実践

A **自由対話**…自力解決が難しい状態で実践。仲間の意見を参考に、自分の考えのヒントにするための対話。

→個人学習後、席を出て自由に仲間の意見を聞き、質問する。

B **グループ対話**…自力解決が○～△の状態で行う。等質・異質グループで意見交換し合い、自分の考えを確かにする(含変更)ための対話。

→個人学習後、グループになって意見交換する。

C **ペア対話**…全体意見の停滞時や個人差がある状態で実践。現状を打破するための対話。



ウ 「まとめ」の充実

コロナ渦でも実践できる事柄であり、本校生徒のストロングポイントにする。

(ア) まとめ(振り返り)の重要性 →「何となくわかった」にしない。

- ・個人学習…熟考したことを「文字言語」にすることで、より確かなものに。
- ・まとめ…わかったことを「言語化」することで、理解力向上や新たな発見に。

(イ) まとめ(振り返り)の書き方

- ①板書を参考にして
- ②仲間の発表を参考にして
- ③キーワードを使って
- ④文字数を制限して
- ⑤「さらに考えてみたいこと」が書けたら◎

(ウ) まとめ(振り返り)の扱い

- ①必ず発表 →
- ②板書して青囲み →
- ③生徒は追記



エ 一人1台タブレット端末の効果的な利用

(ア) 校内外の効果的な活用方法を紹介し合う。一方、タブレットありきではなく、あくまでも目標を達成するための手段とする。

(イ) ミニ反転授業にチャレンジ。→ 校内研修で検討していく。

(ウ) 効果的な宿題アプリによる「自宅学習の充実」。

「授業→家庭学習→見届け→確認テスト」のPDCAサイクルが理想。

→ 学力を向上させて、自分に自信を持つ。

(2) 自治活動の充実

ア 活発な生徒会活動

(7) 年間の重点事項の設定と、各ステージP D C Aサイクルでの運営。

- ①本部で原案を練る
- ②代表委員会で確認する(第〇月曜日の放課後)
- ③専門員会、学級で確認する(第△月曜日の放課後)
- ④生徒集会で周知する(第□月曜日の放課後)…年間2～3回
- ⑤重点項目の達成状況アンケート(達成度総選挙)をとる

(4) 生徒アイディアによる調査活動、ステージごとの達成度総選挙、生徒集会・生徒会掲示コーナーの充実→職員室北側大掲示板

イ リーダー・フォロア育成

日直班活動(リーダー、フォロア育成)で、自治活動を活発にする。

(7) リーダーとフォロアのあり方を啓発。

(4) 呼びかけ活動→2分前に「席ついて」の声、日直班(リーダー)と他の生徒(フォロア)等、学級の全員の声が響きわたる。

(5) 帰りの会で承認→1週間で達成できたら日直班を交代。

ウ 清掃活動に全力

(7) 全力の「黙働清掃」と、時間いっぱいまでの「見つけ清掃」。

(4) きれいなトイレ総選挙、きれいなところ写真展等の実施。

(5) 清掃場所交代のローテーションを全校で統一する。



→ 自ら日常生活の課題を見つけ、解決する力を向上させる。

(3) 自己肯定感の向上

ア 称揚のボイスシャワー

日常のオーバーすぎるくらいの「称揚のボイスシャワー」を実践する。

イ 躍動賞

(7) 大勢の生徒が受賞できるよう、良い取組を教師が見とる。(年間80人が目標)

(4) 対象生徒は、毎週の運営委員会で、参加者が推薦する。事前に意見集約。

(5) 承認されたら、毎月2～3回程度を目安に、昼の放送で表彰する。

ウ 「東中愛にあふれた挨拶」の称揚

以下のような「東中愛にあふれた挨拶」を推奨し、この実践を称揚する。

- ①「東中を挨拶日本一の学校にしたい」
- ②「地域や来客に、東中って素晴らしい学校ですと伝えるような挨拶をしたい」
- ③「自分の挨拶で相手を気持ちよくさせたい」 等

エ いじめ撲滅宣言

いじめがあっては、自己肯定感は向上しない。

(7) 生徒会本部が中心となって、全校でいじめ撲滅宣言をする。

(4) これを東中の自慢にし、称揚のボイスシャワーの大きな対象とする。

→ 自己肯定感が向上し、自分・友達・学校が好きになる。

(4) 不登校の減少

ア 生徒が「自分は大切にされている」と思える指導

- (7) 自分は大切にされていると思えなければ、「勉強をがんばろう(自分のこと)」
「周りに優しくしよう(相手のこと)」という気持ちにはなれない。
- (4) 柱(3)をはじめとした取組により、自己肯定感を向上させる。
「自分には良いところがある」を毎ステージ80%以上にする。



イ 魅力ある学校づくりの実践

- (7) 居場所づくりと絆づくりにより、新規不登校を出さない。
- (4) 学年で主な取組を決め、PDCAサイクルで実践する。
- (7) 成果指標における肯定的評価の内、「当てはまる(4)」の割合を増やす。

ウ 迅速な初期対応

- (7) 常に生徒に寄り添い、様々な情報をキャッチする。(親身な対応)
- (4) ちょっとした異変に気づき、本人が感じているストレスを直ちに除く。
- (7) 教育相談、定期アンケート、保護者との連携等により、迅速で親身な対応の実践。
長期化する可能性がある。原因ときっかけを見極め、適切に初期対応する。

→「自分は大切にされている」と感じ、不登校が減少する。



- ・上記(1)～(4)を実践することにより、重点目標が達成(90%)されれば、東中生の主体性が向上する。
- ・これらを徹底した「PDCAサイクル」で実践する。
- ・「見える化」と「情報発信」の徹底。

3 目標値

(1) 自ら気づき→行動するを実践できたか。(R3 89.3%)	→目標 90%
(2) 自分には良いところがある (R3 87.0%)	→目標 88%
(3) 学校が楽しい (R3 93.2%)	→目標 94%
(4) みんなで何かをするのは楽しい (R3 94.5%)	→目標 95%
(5) 授業に主体的に取り組んでいる (R3 94.5%)	→目標 95%
(6) 授業がよくわかる (R3 90.6%)	→目標 91%
(7) 学校に信頼することができる先生がいる (R3 88.5%)	→目標 90%
(8) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある (R3 69.7%)	→目標 75%
(9) 学級の生徒との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う (R3 93.2%)	→目標 95%
(10) 授業では、コンピュータなどのICTをどの程度利用したか。(R3 99.7%)	→目標 99%